

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫



◆◆◆ No.0885 ◆◆◆

26/04/01

【 3月相場は小動きながら印象深い動意、4月も期待!? 】

昨日終了した3月相場は、月間変動幅が4.80円(155.70-160.46円)。わずかではあるものの、前月の同5.44円を下回り、今年最小の月間変動幅を記録した。

しかし、興味深いのは月間を通して、おおむね「月初安・月末高」の展開をたどったことと、周知のように2024年7月以来のドル高値160円台を記録したことだろう。「実数値以上に記憶に残る、印象深い変動をたどった1カ月」—だったとも言えそうで、足もと4月の動意についても当局の市場介入などを含め、大いに注視している向きが少なくないようだ。

◎「交互パターン」からは「ドル高有利」か!?

今回の当レターでは、恒例となっている過去の経験則を参考にした4月相場の見通しを指摘するが、まずは1990年以降昨年まで過去36年間の星取表を指摘しておく。

それによると、勝敗は17勝19敗でほぼ互角。ただ、過去5年を見ると「ドル安、ドル高、ドル安、ドル高、ドル安」—と何故かドル高とドル安を交互に繰り返している。なお、一般的には、4月は「名実ともに新年度入りすることで、生保や年金など資本筋からの外債投資が活発化。需給的にはドル高・円安有利」といった指摘も聞かれることが多いとされるだけに、先の「交互パターン」と合わせて考えると「今年もドル高有利」—であるのかもしれない。

とは言え、長期的な経験則では、方向性について目立った特徴が見いだせなかったドル/円。ただ、さらに調べてみると、4月相場には別に重要なポイントが2つあることがわかった。

順を追って説明すると、うちひとつは「3月と4月の価格変動は逆方向に動くことが非常に多い」ということ。とくに2000年以降は例外と呼べるケースが稀であることはなかなか興味深い。実際に、3月と4月のドル/円の月足を比較してみると昨年までの全26例中、実に21例までが的中。それも2003年以降2009年までは7連勝、そして一度途切れたあと、2014-21年も8連勝を記録していた。ただ、残念ながら2024年と昨2025年はこのパターンに当てはまっていない。これをどう考えればよいのだろうか。筆者のなかでは、まだ結論が出ていない。

一方、そんな4月相場の2つ目の特徴は「一年間のなかで1月に次いで年間の最高値 or 最安値のいずれかをつける公算が大きい」ことになるだろう。参考までに、1月については1990年以降昨年までの36年間で15回がそのパターンに合致しているが、4月は同様に36年間で8回記録。1月のおよそ半分ではあるものの、確率としては決して低くない。

そして周知のように、昨2025年は4月に記録した139.89円が年間を通したドルの最安値となっている。前述の経験則どおりの展開だった。

折しも最近の為替市場をみると、先でも取り上げたように、ドル/円相場は2024年7月以来となるドル高値圏で推移している。

そのため、足もと4月にドルは続伸し、月内のどこかで高値を更新するも最終的には軟落。つまりは、昨年と逆に「4月にドルは年間高値を記録する」—という展開を必ずしも否定できない気がしてならない。

最後に4月をカレンダー要因、過去の出来事や歴史で振り返ると、興味深い事象がたくさんうかがえる。紙幅に限りもあるため、為替に関するものをいくつかピックアップしても、「ドル/円がメモリアル・ハイの160.35円を記録(1990年)」、「同メモリアル・ローの79.75円を記録(1995年)」をはじめ、「米国が金本位制を停止し、ドルの切り下げ(1933年)」、「GHQが1ドル=360円の為替レート制定(1949年)」、「中国に新たな外為市場が誕生(1994年)」—など枚挙に暇がない。

もちろん、こうしたことは毎年確実に起こるわけではないものの、こちらもやはりリスク要因として、認識しておいて損はないだろう。

なお、いまひとつ参考までに、昨年4月の象徴的な出来事を2つだけ記すと、まずは2日にトランプ米大統領が発表し、のちのち現在に至るまで大きな禍根を残す結果となっている「相互関税」、いわゆる「トラン

プ関税」の導入を忘れることが出来ない。

それに対し、エンタメ的な要因では、4月13日に「大阪・関西万博」が開幕したことも、いまだ記憶に新しいところだ。始まる前は様々な懸念が取り沙汰されたものの、終わってみれば終了を惜しむ声も多く聞かれるなど大成功のイベントだったと言ってよい。今年も、それら過去に匹敵するような興味深い出来事が果たして起こることになるのだろうか、是非とも注目しておきたい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter